

## 歴史民俗資料館だより

### 唐箕とうみ

唐箕は、風力を利用して穀物を精選（実の入った初殻や稲ワラなどのごみをより分けたり、十分突った初と未熟な初を選別）する道具として造られました。中国から伝わったとされ、中国では風扇車と呼ばれていました。円筒形の風扇の内部にある羽根を回転させて風を起し、その風力で風扇の上に据えてある漏斗状から落ちてくる初殻を吹き飛ばすもので、重い米粒は一番口、未熟な米粒は二番口、軽いワラやごみは大口と三つに選別されてそれぞれの口から出てくる仕組みとなっています。しかし、風をあまり強くするとよい突まで飛ばしてしまい、逆にあまり弱いと選別の状態が悪いので、いつも下の口を見ながら風力を調整して回転させなければなりません。唐箕は時代とともに改良されてきました。

貞享元年（一六八四）の「会津農書」には、「ぬかを取るにハ甘より箕を以て、今鷹扇

（唐箕）を仕ふはまれに有」とあり、福島県の会津地方で唐箕が使われ始めたこと記述されています。絵図などで当時の唐箕の形態が示されているのは、正徳二年（一七一二）の「和漢三才図会」には「鷹扇・唐箕、俗ニ太字美穀ヲ以テ穀ヲ揀ル、鷹扇ヲ用ヒテ粹ヲ去ル也」とあるところを見ると江戸時代にはすでに利用されていたことがわかります。「鷹」の文字は、「あがる、あける」風が吹き上げられる、風が吹き下げる、「扇」は「せんす」の意味をもちます。

東濃地域では、これを「トウアオチ」これが流れて「トウウチ」と呼ばれています。これを漢字にすると「唐扇」となりま

す。ちなみに「あおち」は「あ

一七〇四のころです。このころは、まだ上層農家などの一部で使用されるにすぎなかったようです。しかし、天明、寛政年間（一七八一～一八〇二）になると各地域に相当普及して、天

明年間には、唐箕のない家へ奉公するのを嫌がる人が出るほど画期的なものでした。また、現存する江戸時代の年号が記された唐箕からも普及ぶりうかがえます。京都府には、明和四年（一七六七）の唐箕が残っており、文化年間（一八〇四～一八一八）から幕末にかけての紀年銘のある唐箕は各地に残っています。これらの唐箕には、漏斗部の形態や穀物の落下量を調節する装置、選別された穀物の出る樋の取り付け方などに各地域の特色がみられます。

資料館では、町民のかたがたから寄贈していただいた明治時代から昭和の中期まで使われていた唐箕を保存しています。



## ごみ減量化コーナー



ごみを減らすための「3R」をご存知ですか？

**Reduce (リデュース) Reuse (リユース) Recycle (リサイクル)**

この3つのキーワードを実行することが、ごみ減量化への第1歩です。今月からこのコーナーで、1つずつ紹介しますので、各家庭で取り組みましょう！

**Reduce (リデュース)** とは、「**ごみを出さない、つぐらない**」ことです。

ごみを減らすのに一番大切なのは、家庭から出るごみを減らすことですが、それ以前に、ごみとなるものを買わない、持ち込まないということもリデュースです。

今日から、生活を見直すことにより無駄を無くして、ごみ減量にご協力ください。

- ・食事を作り過ぎない食生活で、生ごみをださないようにしましょう！
- ・過剰包装は断り、マイバックを持参しましょう！
- ・使い捨て商品は買わないようにしましょう！
- ・家電製品や家具はこわれにくいものを選び、長く大切に使いましょう！